

大豆情報第3号

J A む な か た
北筑前普及指導センター

本年の7月1日～8月15日の気象は、平年に比べ平均気温は1.6℃高く、降水量は37%と少なく、日照時間は109%とやや多い状況でした。播種は、7月10日頃から本格的に始まりましたが、7月18日～19日の降雨直前に播種したほ場では播き直しが行われました。その後は、乾燥が続いたため全体的に生育は抑制されています。

今後は以下のことに留意して栽培管理を行ってください。

1 排水対策および施肥

8月11日発表の1か月予報は下表のとおりです。

降雨が続いた場合は、湿害防止のため、本暗渠の栓を開けて地下排水を凶る必要があります。また、中耕・培土でできた溝と、排水口を確実につないで、早めに地表水の排水を行ってください。

また、開花期前で生育量が少ない場合や湿害が発生しているほ場では、硫安10kg/10a(窒素2kg/10a程度)を追肥することにより生育を回復させることができます。

福岡管区气象台1か月予報

(1 週目) 8/13～19	(2 週目) 8/20～26	(3～4 週目) 8/27～9/9
高気圧に覆われて晴れる日もありますが、前線や湿った空気の影響で曇りや雨の降る日が多いでしょう。	前線や湿った空気の影響を受けやすいため、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。	平年と同様に晴れの日が多いでしょう。

2 雑草防除

本年は、乾燥の影響で、雑草の発生はやや少ないですが、ほ場によっては発生が多いところもあります。現在、雑草の発生が多くみられる場合は、中期除草剤による防除が必要です。

【イネ科雑草】

ポルトフロアブル (200～300ml/10aを水100ℓ、収穫30日前まで)

【アサガオ類】

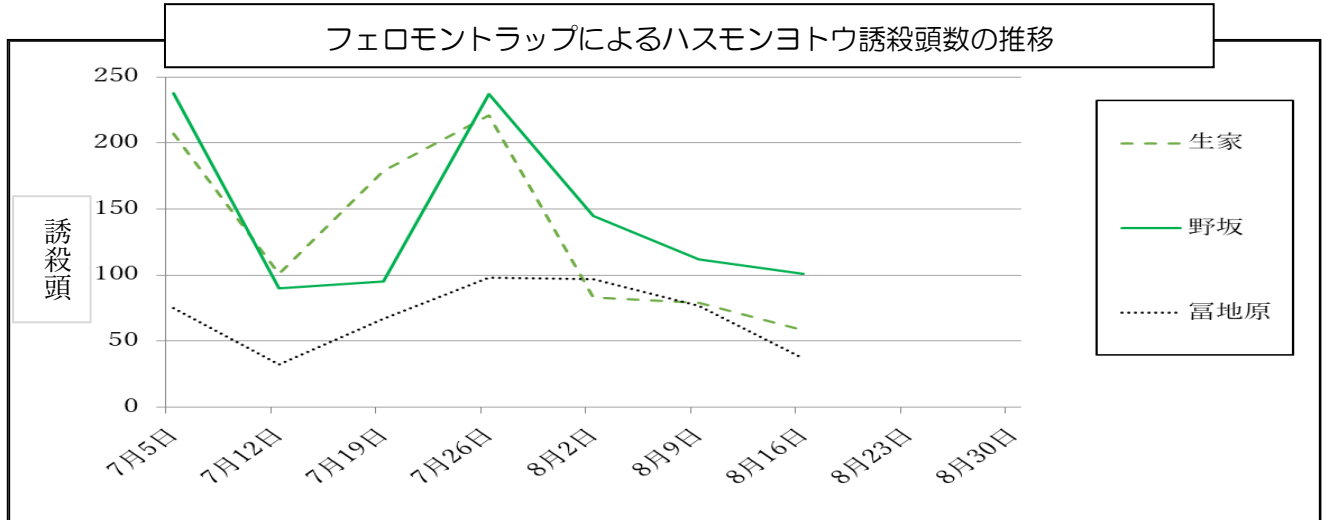
大豆バサグラン液剤 (100～150ml/10aを水100ℓ、開花前まで)

【ホソアオゲイトウ、ホオズキ等の広葉雑草】

アタックショット乳剤 (30～50ml/10aを水100ℓ、開花前まで)

3 ハスモンヨトウ

管内3か所で設置しているフェロモントラップの誘殺数は、現在少ない状況です。今後の発生は地域やほ場で異なるため、白変葉や虫の発生状況を確認しながら防除を実施してください。



☆ハスモンヨトウ防除（白変葉が5株/aを超えるほ場）

剤型	薬剤名	対象病害虫	使用時期	使用量 (10a 当たり)
液剤	プレバソフフロアブル5 (4,000倍)	ハスモンヨトウ	収穫7日前まで	100ℓ ~150ℓ
粉剤	トレボン粉剤 DL	ハスモンヨトウ、 カメムシ類	収穫14日前まで	4kg

※液剤の場合、カメムシ類が多いほ場は、トレボン乳剤（1000倍）を混用してください。

【白変葉】



【ハスモンヨトウ幼虫】



★農薬を正しく安全に使用しましょう！！

- ① 散布前に必ずラベルを確認
- ② 散布時には近隣作物や住宅街への飛散防止を徹底
- ③ 散布後は必ず散布器具（タンク、ホース等）を洗浄
- ④ 防除履歴の正確な記帳